

令和7年度指定管理者制度導入施設の管理運営業務の年度評価 評価基準表

施設名	豊中市市民ホール等
所管部(局)課	都市活力部魅力文化創造課
指定管理者	JCD・日本管財・大阪共立グループ

	評価項目	評価ポイント	所管部局コメント	評価
1	基本姿勢	管理運営の基本的な考え方が、法令等をふまえ、公共の利益の増進に合致したものであるか 施設の性格、設置目的及び市の施策等を的確に把握し考慮した管理運営であったか。また、市と積極的に連携・協力し、市政運営の一翼を担っていたか	令和7年度においても、協定書等に基づき関係法令を遵守しながら、公共施設として求められる安定的な運営が行われていると認められる。 また、本市の文化芸術施策や各施設の役割を踏まえ、鑑賞・普及・人材育成の各事業を相互に関連付けながら展開することで、市民参加の促進や担い手の育成につながる取組が進められている点は評価できる。施設間の連携や一体的な運営による効果の広がりも見られる。 さらに、定期的な協議や情報共有を通じて本市との連携が図られており、課題への対応やサービス向上に向けた取組も適切に実施されている。 以上より、公共施設としての役割を踏まえた運営が行われるとともに、本市施策の推進にも寄与する内容となっていると評価する。	B
2	事業計画	「人材育成・ボランティア組織コーディネート事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか 「鑑賞事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか 「貸館事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか 「情報提供事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか	各事業については、概ね仕様書・事業計画書に基づき実施されており、それぞれの分野において一定の成果が認められる。 人材育成・ボランティアコーディネート事業では、「とよなか ARTS ワゴン」を中核として多様な主体の参画を図りながら育成が進められている。令和7年度は第6期生2名を迎え、「お茶の間オーケストラ」等への派遣や市内小学校16校での「ふれアート」の実施など、実践機会の充実に図られた。また、講座の実施やボランティア・インターンの受入れにより、運営を支える人材育成にも取り組んでいる。担い手の育成と活動機会の拡充につながる取組が行われているものと評価できる。 鑑賞事業では、若手アーティストの起用や多様な分野の公演により、幅広い鑑賞機会の提供が図られている。日本センチュリー交響楽団との連携事業では、公演に加え関連企画を展開するなど、取組の広がりが見られた。また、特色ある公演において完売となるなど	B

	評価項目	評価ポイント	所管部局コメント	評価
		「相談事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか	一定の成果が見られるほか、継続事業により日常的な鑑賞機会の確保にも努めている。一方で、来場者層の拡大に向けた取組については、引き続き工夫が求められる。	
		「友の会事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか	貸館事業では、各施設において高水準の稼働率を維持しており、安定した利用が確保されている。また、キャッシュレス決済の導入や学生団体割引制度、各種企画の実施など、利用促進や利便性向上に向けた取組も見られる。一方で、高稼働に伴う設備面への対応や利用者層の拡大については、引き続き工夫が求められる。	
		「広報・宣伝事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか	情報提供事業では、館内チラシラックの活用や情報誌「aperitif」への掲載により、施設内外へ幅広く文化芸術情報を発信している。また、ウェブサイトへの催事情報掲載に加え、バーチャルツアーの導入により、来館前でも施設の利用イメージが把握できる環境を整備	

	評価項目	評価ポイント	所管部局コメント	評価
		「コミュニケーションロビーの運営」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか	するなど、利便性向上に向けた工夫も見られる。 相談事業では、貸館利用希望者を対象とした見学会や個別相談を継続的に実施し、年間72組の対応を行うなど、利用前の不安解消や円滑な利用につながる取組が図られている。また、自治体や他施設からの視察受入や職員の外部会議参加を通じて、情報収集やネットワーク構築にも取り組んでいる点は評価できる。 友の会事業については、会員ニーズの変化を踏まえ、若年層向けプランの導入や会員限定イベントの実施など、新たな取組が進められている。一方で、会員数は目標に達しておらず、引き続き会員拡大に向けた工夫が必要である。なお、制度見直しを進める中で、約6割の会員が継続申込みを行っており、一定の定着は図られているものと考えられる。今後、利用者ニーズの多様化に対応した魅力ある仕組みづくりが期待される。 広報・宣伝事業では、ホームページや情報誌の発行、SNS運用、広告出稿など多様な媒体を組み合わせることで、施設や事業に関する情報発信が行われている。特に、SNSの活用強化や動画コンテンツの発信により、幅広い層へのリーチ拡大に取り組んでいる点は評価できる。一方で、ウェブサイトの回遊性や情報導線の整理については改善の余地があり、引き続き効果的な情報発信に向けた工夫が求められる。 コミュニケーションロビーの運営では、カフェの運営を通じて来館者へのサービス提供が継続されており、安定した運営が確保されている。来客数も減少したものの、売上は概ね維持されており、接客対応の質の高さも含め、一定の利用者満足が得られていると考えられる。また、「こども食堂」や哲学カフェの開催、「TOYONAKAARTBRIDGE」への活用など、地域交流や文化発信の場として多様な取り組みが展開されている点は評価できる。	
3	確保すべきサービス水準	文芸センター大ホールの年間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；85% 確保すべきサービス水準値；70% 実績値；86.1% 最高評価サービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	B

	評価項目	評価ポイント	所管部局コメント	評価
		文芸センター中ホールの年間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；85% 確保すべきサービス水準値；70% 実績値；89.7% 最高評価サービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		文芸センター小ホールの年間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；85% 確保すべきサービス水準値；70% 実績値；99.3% 最高評価サービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		ローズ文化ホールの年間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；75% 確保すべきサービス水準値；60% 実績値；70.1% 確保すべきサービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		伝統芸能館の年間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；85% 確保すべきサービス水準値；70% 実績値；76.7% 確保すべきサービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		市民ギャラリーの年間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；75% 確保すべきサービス水準値；60% 実績値；91.1% 最高評価サービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		文化芸術センター展示室の年間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；75% 確保すべきサービス水準値；60% 実績値；77.2% 最高評価サービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	

	評価項目	評価ポイント	所管部局コメント	評価
		文化芸術センター多目的室の年間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；75% 確保すべきサービス水準値；60% 実績値；92.8% 最高評価サービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		文芸センター、ローズ文化ホール of 年間来場者数合計 (人)	最高評価サービス水準値；500,000 人 確保すべきサービス水準値；410,000 人 実績値；447,412 人 確保すべきサービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		4 ホール (文芸センター大ホール、中ホール、小ホール、ローズ文化ホール) で実施する事業の 1 事業あたりの平均参加率 (参加率＝1 事業の来場者数 (チケット販売数) / ホールの客席 × 100)	最高評価サービス水準値；75% 確保すべきサービス水準値；50% 実績値；65.8% 確保すべきサービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		友の会の会員数	最高評価サービス水準値；1,500 人 確保すべきサービス水準値；1,000 人 実績値；673 人 確保すべきサービス水準値を下回る結果となった。	
4	施設効用の発揮	当該施設の管理運営を担うのに相応しい人員を配置し、職員の質の向上を図る方針や計画を遂行しているか 安心安全な維持管理、公平公正な使用承認の判断といった施設運営等、管理運営が適切に行えているか	安定した運営体制の下、関係者間の連携強化や業務の見直しを通じて、効率的な施設運営が図られており、市政運営の一翼を担っている。 今後も、これまでの取組を踏まえつつ、さらなるサービス向上と適切な運営管理の推進に期待する。	B
5	財務健全性	貸借対照表は健全か 損益計算書は健全か 資金保有 (期末残高) は健全か	純資産及び資金保有の状況は良好であり、収支状況も安定していることから、財務健全性は確保されていると認められる。	A

	評価項目	評価ポイント	所管部局コメント	評価
		(当該事業の) 収支状況・収支計画は適切か		
6	市民満足度への配慮	利用者への接客対応は適切か。また、サービスの向上が図られているか 地域の市民や団体、近隣公共施設等と連携（協働）し、施設の効用を発揮させているか	利用者アンケートでは、施設利用満足度における項目で、大変満足と満足を含めると、文化芸術センターは94.4%（前年度80.4%、前々年度92%）、ローズ文化ホールは90.0%（前年度92.9%、前々年度88.1%）、伝統芸能館91.1%（前年度82.6%、前々年度95.3%）、市民ギャラリー95.3%（前年度94.3%、前々年度94.3%）となっており、各施設ともに高評価となっている。 地域連携については、外部研修やセミナーへの参加促進、インターンシップの受け入れなどを通じて人材育成および地域との関係構築が図られている。 また、近隣小学校との連携や「こども食堂」の実施など、地域に根ざした取組を継続して実施するとともに、SDGs パートナーとしての取組や合理的配慮に関する研修を通じて、多様な利用者に配慮した環境づくりにも努めている点は評価できる。	B
7	従業者への配慮	福利厚生や労働安全衛生に係る制度が充実しているか 勤務時間、休暇制度等が法令に適合するとともに、職員の健康や仕事と生活の調和に配慮したものになっているか その他、労働関係法令を遵守しているか	福利厚生、休暇制度及び労働安全衛生に係る取組は概ね良好である。 ただし、労働時間の管理及び時間外勤務の取扱いについては、労働時間の把握方法や端数処理の運用について外部委員から意見が付けられている。昨年度に引き続き指摘であることから、その内容を踏まえ、適切な労務管理に向けた対応を進めていきたい。	B
8	危機管理体制	情報管理・個人情報の保護の重要性について理解し、個人情報の漏えい、不正利用を防止するために整えた体制が堅固であるか 緊急事態発生等への危機管理に対する体制が堅固であるか。また、防災訓練の実施内容がさまざまな事象を想定した実践的なものであったか	職員に対し、個人情報保護をはじめとする情報管理に関するオンライン研修や理解度確認テストを実施するなど、意識向上及び適正な管理に努めている。今後も継続して研修等を実施し、個人情報保護に関する管理体制の維持・強化に取り組まれたい。 定期的に各館ごとに消防訓練等を行い、緊急事態が発生したときに備えて準備ができており、大きな事故なく運営されている。	B

	評価項目	評価ポイント	所管部局コメント	評価
9	その他	「自由提案」とした事業を事業計画書に則し、積極的に実施したか、また事業内容が施設の設置目的を踏まえた創意工夫が見られたか	自由提案事業については、アウトリーチや鑑賞事業において創意工夫を凝らした取組が展開されており、事業計画に基づき着実に実施されている。特に、「とよなかARTS ワゴン」を軸とした小学校との連携拡大や、多様な公演・参加型企画の実施により、幅広い層に文化芸術に触れる機会を提供している点は評価できる。今後のさらなる展開に期待する。	A
	総合評価		令和7年度は、施設の安定的な管理運営を維持するとともに、サービス水準の向上に向けた取組が着実に進められている。 文化芸術事業においては、「とよなかARTS ワゴン」を中心としたアウトリーチの拡充により、市内小学校16校での実施など活動規模の拡大が図られており、担い手育成や地域との連携強化につながっている点は評価できる。また、「センチュリー豊中名曲シリーズ」をはじめとする鑑賞事業では、幅広いジャンルの公演や分野横断的な取組を通じて、多様な文化芸術に触れる機会の提供が図られている。 貸館事業においても、各施設で高い稼働率を維持しており、利用促進やサービス向上に向けた取組により安定した運営がなされている。 一方で、友の会事業については会員数が目標に達しておらず、新規層の獲得や継続利用促進に向けた取組が課題として残る。また、広報面においても、情報発信手法のさらなる工夫により利用者層の拡大を図る必要がある。 今後は、これまでの取組を基盤としながら、各事業の連携強化や利用者ニーズへの対応を進めることで、施設のさらなる価値向上と市民サービスの充実につながる展開が期待される。	B

(評価の基準)

- A ; 優れた管理運営状況である
 B ; 問題のない管理運営状況である
 C ; 改善を要する管理運営状況である